

お 泉 水

№.14 1983. 10. 25 福井県図書館協会報

福井市城東1-18-21・県立図書館内 県図書館協会



敦賀市立図書館 “なかよし号” 走る

当館では昭和52年に新館を開館後、地域に根ざした図書館づくりを目指し図書館運営を展開してきましたが、更に住民のすべてが図書館サービスを受けられる環境づくり、図書館システムの確立、全域サービスの実現の為、車の持つ機動性をフルに活用し1人でも多くの人に読書サービスを可能にする移動図書館を実施します。この移動図書館車は26人乗りのマイクロバスを改造し、内外書架式で最大2,300冊積載できます。愛称は市民を対象に公募した中から「なかよし号」と名付け、“未来を開く移動図書館車「なかよし号」”のスローガンをかかげ10月19日にスタートしました。運営方式は一般コースと特別コースを設定し、一般コースは遠隔地を対象に図書の貸出業務のみ、特別コースは人口密集地に駐車場を設け図書の貸出業務のほかに、おはなし・紙芝居・映画会・読書会等もあわせて行ないます。駐車場の設定については本館より2キロ以遠とし、一般コースは、保育園・小学校・公会堂・神社・寺・公民館に、特別コースは、団地内に駐車場を設け両コース合わせて46駐車場を設置します。具体的な巡回計画は次のとおりです。

- (1)巡回時間…出発時刻12:00～帰館時刻17:30
 - (2)巡回周期…月1回(雨天時も運行)
 - (3)巡回日程…一般コースは毎週水・金曜日(1日5～6地区)、特別コースは毎月第2火・木曜日と第4木曜日(1日1地区)
 - (4)駐車時間…一般コースは30分・特別コースは90分
- 積載資料は図書のみ、配架用1,500冊、予備用500冊を児童書40%・一般書60%の比率で積載し、順次本館の図書と入れ換え常に新鮮な図書の提供に心掛けます。内容については、一般書の他に、当市では原子力発電所所在地ということで原子力に対し一般的知識を広げる為、本館その他公共施設に原子力図書コーナーを設けており、移動図書館も同様の図書コーナーを取り入れます。又、ご老人の利用を考慮に入れ大活字本も積載します。以上の様な計画で来年3月までを調整期間とし、更に各地区の実状に合った移動図書館の運営に近づけていきたいと考えております。最後に図書収集につきましては各機関・個人からの御寄贈ならびに県立図書館からのご協力を頂きました。厚くお礼申し上げます。

中野重治文庫記念

丸岡町民図書館が開館

郷土出身の作家中野重治先生が逝去され、日本近代文学研究にかけがえのない貴重な蔵書の寄贈を契機として建設されたのが丸岡町民図書館です。

開館式は本年5月28日、夫人原泉・息女鰻目卯女・宇野重吉・水上勉・佐多稲子・沢地久枝等19名の知名各位の参列を得て挙行了しました。文化の香り高い盛典でした。

新装の図書館は、切妻瓦葺白壁造2階建て、日本最古の丸岡城にふさわしく、広い庭園に囲まれ、静かで親しみやすい環境です。おもちゃ図書館を公共で初めて開設し、リスニング・青年・婦人の各コーナー、一般・児童閲覧室等、3万5千の資料を各世代の要求に応じて配架、

視聴覚室では器機資料の貸与と映写会、お話し会、会議室で読書会、サークル、学習室で学生好学者の利用推進に努めています。

開館以来3カ月、入館者63,591人(人口一人当たり2.5回)貸出冊数28,021冊(一人当たり1.1冊)登録者3,447人(全人口の13%)親しみ易く利用しやすい図書館、青少年健全育成に役立つ図書館、周辺の区民も利用できる図書館、さらに、中野重治先生の生涯の足跡と魂を一目で見、深く研究できる特色ある図書館をめざして職員7名が全員ちからを合わせて努力しています。

(丸岡町民図書館長 牧野 正次)

今立町立図書館オープン

今立町の図書館は、昭和12年、当町から東京へ出られた方が郷土愛に燃え、地方の精神文化振興にと独力で白亜燦然たる図書館「花筐文庫」を建設寄贈されました。当時の町民はどんなに誇らしげにこの文庫の扉を開けたことであらう。しかし、長年の風雪に耐え難く老朽化したため、先人の意志を継承すべくこの度新築することになりました。

新しい図書館は、鉄筋コンクリート造り2階建て、延床面積1,080㎡。1階は一般閲覧室、児童閲覧室、郷土資料閲覧室、新聞雑誌閲覧室がワンフロアになっており、広々とした感じと採光に特に配慮しました。2階には書

庫、会議室、視聴覚室等があり、総事業費2億286万円です。昭和58年3月完成し、同6月23日開館しました。

時あたかも福井県では“文化のふるさとづくり”を提唱され、身近かな図書館の設置を推進されております。しかしながら、最近の活字離れの傾向は顕著であり、中でも今日の青少年は、生まれながらにしてテレビという映像文化の中で育っております。今後、青少年の健全育成と高齢化社会のもとで特に重要度を増してきた生涯教育の場として図書館の果たす役割りは大であると考えております。

(今立町立図書館長 藤本 正晃)

金津町立図書館開館間近

金津町立図書館が11月1日にオープン予定。待ち望んでいた施設である。金津町は人口1万7千。教育施設には、幼稚園5・小学校5・中学校1・県立高等学校1・公民館6館がある。また、町文化協議会加入の読書会8グループが活動している。

建物は中央公民館と併設(2階全フロア約600㎡)開架書庫(約3万冊収納可、現在1万2千冊)・閉架書庫(約2万冊収納可)・児童読書室・一般読書室・研究室・司書室・印刷室その他で、講習室・会議室・視聴覚室等は公民館に依存する。

当館の特色として、中央公民館との併設を生かして、

町民誰もが気軽に利用できるよう親しみある経営、第2に“蓮如の里”としての地域の伝統をふまえて、蓮如に関する文献を整備すること、そして、今日の活字離れの傾向の中で、児童の読書習慣を育てるよう、児童図書の実と読書案内を重視していきたいと考えている。

開館に当たって県立図書館をはじめ、福井・武生・鯖江・三国・丸岡の各図書館からあたたかいご指導をいただいた。これからの模索にも、手をさしのべていただきたいと願っている。

所在地 福井県坂井郡金津町東

電話 (0776) 73-1011

子供たちに夢を

敦賀市立図書館 辻 則 子

子供の“読書ばなれ”が注目されてから久しくなるが、そこには、幼児期における読書への結びつきが、1つのカギを握っているのではないだろうか。読みきかせの高山智津子先生（大阪）の言葉をかりれば、生後5か月の乳児に絵本を読みきかせると、反応を示すという。また幼い頃に母親から聞いた昔ばなしというのは、いくつになっても心の中に残っているものである。このように、幼児期に読書へのきっかけをつかまえさせることが、非常に重要になってくると思う。その意味においても、子供への読みきかせ、語りきかせは、図書館の児童サービスの中では欠かせないものである。当館では、ボランティアグループ「杉の子」と、仁愛短大生の協力を得て、月2回のストーリーテリングを行なっているが、おはなしに聞き入る子供たちの目は、キラキラ輝いて美しい。そして、おはなしのたのしさを知った子供は、また新しい夢を求めて本を借りて帰るのである。子供たちのまっ白な心のキャンパスにいくつかの色づけをするお手伝いができれば、一職員として幸せなことだと思っている。

不 安

鯖江市図書館 前 寿 則

あちこちの市町村に図書館が建てられ、また建設の計画が進んでいると聞く。誠に結構なことである。美術館とか図書館というような施設を文化施設と呼ぶなら、本県は極めて文化施設の貧しい県であったから、今それを充実させようという風潮が高まって来たということは、喜ぶべきことであると思うのである。だが、僕には拭いきれない疑いと不安がある。学校が立派になり、プールが作られて、子供はよくなったか。文化会館が出来、テニスコートが出来、大学に行く者は信じられぬ程多くなって、それで人の心は育ったか。近代的な図書館があちこちに建って、人の心が豊かになるものなのか。僕はその問に対する答を持っていない。ただ疑いと不安が有るばかりである。しかしそういう疑いを不安なしに「図書館が建つのはいいことだ」「何でもあるのは良いことだ」というような論理だけが働くことは全く賛成できぬのである。飢餓のないところには何物も生まれはしないということを一度考え直してみる必要があるのではないだろうか。

ワープロ大奮戦中

丸岡町民図書館 大 廻 政 成

町立図書館にコンピューターは必要だろうか。こんな疑問を持ち始めたのは、昨年来多摩地区・長野方面の先進地図書館をいくつか見学してからであった。

“10万冊以下の図書館には必要がない”利用者とのコミュニケーションが阻害される等の理由で導入を見送ったものの、中野文庫冊子目録・リクエスト・レファレンスにともなう検索等、日頃の業務に限界を感じながら、ふと導入を見送ったことが悔いられる。

もちろん開館から3か月しか経ていない今、限界などというより、業務そのものに慣れないことの方が大きいかもしれない。しかし限られた人員でより図書館サービスを充実したものにしていこうとすると、やはり、限界としかいいようのない壁にぶつかってしまう。

そこで最近注目を浴びている「日本語ワードプロセッサ」の効用に目をつけたわけだが、いわゆるシステムコンピューターほどの能力はないにしても、使い方ひとつで大型コンピューター並の実力を発揮してくれるものと現在奮戦中である。乞うご期待！

もてるもの！ もたざるもの！

福井医科大学 木 村 幹 明
附属図書館

本学図書館では、比較的古い資料については他大学などへ文献複写を依頼することが多いが、依頼のための所蔵館調査など一連の作業は労力を要し、また文献到着まで相当期間を必要とするため、迅速な情報提供を行えない悩みがある。これらの悩みは学術情報システムが稼動すれば解決するものもあろうが、資料の複写、送付方法などこのシステム構想にのらない部分は以前として未解決のまま残るであろう。雑誌の発行種類数が飛躍的な伸びを示すのに反し、予算の伸びは期待できないことを思えば、全国的に所蔵の少ないいわゆる「Rare Journal」がますます増え、「もたざるもの」の悩みはつきないようおもえる。一方「もてるもの」（外国雑誌の拠点図書館など）も全国から複写依頼が殺到し、連日これらの処理におわれている。「もてるもの」も「もたざるもの」も悩みはつきないようである。いや、本学図書館も県内医療情報センターとして、県内各機関などへ情報提供をする立場でもある。視点を変えれば「もたざるもの」も「もてるもの」となるということか！

県内図書館界の動き

◆図書館設置率100%を達成

昭和57年度から図書館のない市町村を対象に始まった県の「市町村立図書館整備促進事業」の進展に伴い、図書館未設置の各市町村では図書館建設の気運が高まり、これまでに図書館未設置市町村はすべて図書館設置条例を制定した。これで条例上は設置率100%となり、県内図書館界はかつてない飛躍的な発展を遂げたことになる。ちなみに市町村立図書館の施設設置状況は昭和58年10月1日現在で、施設を有する市町村は11、条例だけで施設のない市町村は24となっている。これからは施設のない市町村が一日も早く、施設を建設することが最大の課題となる。厳しい財政事情のおりから、施設建設は極めて困難な事業だと考えられるが、関係市町村のご熱意ある取り組みを心から期待したい。

◆あいつく図書館建設

このところ関係市町村のご努力が実り、いくつかの図書館建設の朗報があいついでいる。さきに新築開館した中野重治文庫記念丸岡町民図書館（58年5月28日開館）今立町立図書館（58年6月23日開館）について今秋、11月1日には金津町立図書館が新築開館予定となっている。さらに大野市図書館、芦原町立図書館の建設計画も進んでおり、近い将来にはこれらの館の開館もみられることだろう。

◆移動図書館「なかよし号」がスタート

敦賀市立図書館は別掲のとおり、本年の読書週間をまえに市民待望の移動図書館「なかよし号」をスタートさせた。これで本県は三国町立図書館の「くずりゅう号」福井市立図書館の「あじさい号」と共に3台の本格的な移動図書館車を運行することになった。

◆公共図書館研究集會を開く

昭和58年9月20日・21日の両日、芦泉荘（芦原町）を会場に「昭和58年度東海北陸地区公共図書館研究集會」を開催した。参加者は81名。テーマは「図書の選択について」であった。事例発表にもとずき、選択方針の確立、選択の基準・方法、選択者の研修など、現場で図書選択をすすめるさいの問題点について熱心な討議が行われた。

◆郷土資料総合目録増補改訂版の作成

県高等学校教育研究会学校図書館部会司書研究会では「福井県下高等学校図書館郷土資料総合目録増補改訂版」を60年度に発行することをきめ、このほど作成作業に着手、現在収録範囲の検討に入っている。

福井地区大学図書館協議会 のあゆみ

本協議会は、県内の大学、短大、高専図書館の連絡、協力、発展を図ることを目的として、昭和49年に発足し、以後、毎年、協議会ならびに研修会を開催して、図書館運営の発展、職員の資質の向上に努め、大きい成果を挙げてきた。

本年度も、8月に福井大学において協議会を開催し、前年度事業報告、決算、本年度予算案を承認すると共に、今後の運営について協議した。その結果、現在の図書館界の動向等を考えると、図書館運営の見直し、職員資質の向上などが急務であるので、本年度は共通の問題点などを踏まえて研修会を開くことになった。今後は、各館の実状把握なども含めて、さらに研修内容を深め、図書館の発展に寄与したいと考えている。

福井県学校図書館協議会

○6月22日（水） 第25回福井県学校図書館研究大会
会場 丹生郡朝日東小学校・同朝日東中学校・県立丹生高等学校

『ゆとりと充実』の教育課程に立脚した学校図書館はどうあるべきか。」という研究大会主題に沿って、熱心な討議がなされ、会全体のあと「古越前のこころ」と題して、陶芸研究家水野九右衛門氏の講演をきいた。

○8月4日（木） 昭和58年度学校図書館実務講習会
会場 福井県立図書館大会議室

はじめて学校図書館の業務に従事する教職員を対象に講習会を実施し、86名の参加をみ、とても有意義であった。

○10月14・15日 第28回近畿学校図書館研究大会
会場 滋賀県長浜市小中学校

福井県学校図書館協議会からも、助言者、司会者、発表者をはじめとして約80名が参加した。

✧ 事務局通信 ✧

本会の本年度の行事は次のとおりである。

- 6月3日 理事会兼総会
- 7月 読書感想文県下コンクール作品募集（～9月）
- 7月19日 第1回郷土資料分類表改訂委員会
- 9月20日 東海北陸地区公共図書館研究集會（～21日）
- 10月25日 “お泉水”第14号発行
- 10月29日 読書感想文県下コンクール入選者表彰式
- 11月下旬 第2回郷土資料分類表改訂委員会
- 59年2月 県下図書館関係職員研集會

今年より機関誌“お泉水”の刊行時期を早め、内容を改めましたが、御意見があればお聞かせ下さい。（I）